



平成十八年十月二十日  
〒九三〇八〇四  
高岡市問屋町四十  
有限会社 沖商店発  
2016年10月

TEL 〇七六六一五一一五五  
FAX 〇七六六一五五〇〇  
E-mail info@kshouten.com

いつもお世話になりありがとうございます。

『人は何の為にこの世の中へ生まれて来たのでしょうか』『人生の本来の目的は何なのでしょう』ということに皆様と一緒に考え、意見を交換し相つて、共に研鑽を深めて行きたい。そんな思いで本通信をお届けしている次第です。どうか忌憚の無い意見を寄せさせていただきます。

一 不名誉で有名では

先日、富山県射水市民病院で、末期がん患者の延命装置を取り外し、患者の命を終らせた事件が全国的にも大きく取上げられ、私も東京や大阪で「富山県って新潟県の向う(さらに北)ですか」なんて言われて、その知名度の無さにがっかりしていたほど無視されていましたが、この事件で一躍有名になりました。いまでは「富山県」と言うと「ああ、延命装置の取り外し問題で報道されていた射水市民病院のある」ということで、ずいぶん知名度が上がりました。

これは、現代の日本の高齢化社会で、各地共通の大問題である「人生とは何ぞや、生き甲斐、脳死、植物人間、安楽死、尊厳死」など命のあり方を、改めて考えさせる機会を与えた一大事件であったから、皆さんが注目し関心を寄せた結果だと思えます。

ところが、今度は九月二十七日に、富山赤十字病院で、富山市の男性(七〇)の胸に溜まった水を採取する際に動脈を傷つけ、それに気が付かず止血手術も遅れて、その男性が急死するという医療事故が起きました。この病院では九月一日にも、医師が人工呼吸器のスイッチを入れ忘れ、福井県の二十代の男性が一時的に心停止状態になるという医療事故を起こしていました。さらに、三日の北日本新聞の朝刊に、同病院で「昨年三月にも医療事故で富山市内の男性(五九)が死亡していたことが二日、分りました。男性は食道がんの手術後に受けた高カ roller 輸液の投与などで血糖値が異常に上昇。医師が血糖値検査をしなかったため異常に気付くのが遅れ手術の十一日後に男性は死亡した」と言う記事が載っていました。これでまた、富山県が

有名になりました。

さらに、同じ三日の北日本新聞の朝刊に、富山県警の警察官が、秋の全国交通安全運動期間中に飲酒運転をするという、常識では考えられない事件が報道されていました。記事によると「県警南砺署の男子巡查長(五二)は九月二十五日午前九時半に南砺市内の交番での宿直勤務を終え、立ち寄ったコンビニ二店で紙パック入りの日本酒を購入。さらにスーパーでつまみの刺身を買ひ、そのまま店の駐車場に止めた車内で日本酒を飲んだ。その後、車で高岡市内のパチンコ店に移動し、パチンコをした後に同店駐車場まで再び酒を飲んだ。同日午後二時四十分ごろ、帰宅途中で砺波市太郎丸で携帯電話を掛けながら運転していたところを警中の警察官に見つかり、職務質問を受けて酒気帯び運転が発覚。呼気一リットル中から〇・二五ミリグラム以上のアルコール分が検出された。調べに対し「つまみを買った後、酒を我慢できなくなつた」と話しているという。飲んだ量は二度にわたって三合から四合、飲酒して走った距離は十四キロメートルというから驚きです。これもあまり例のない事件ですから全国的に報道され有名になるでしょう。全国的に有名になるのは宜しいのですが、悪名高いのでは頂けません。

二 神からのシグナル

五日の北日本新聞の朝刊に「県警は巡查長が昭和六十年にも酒気帯び運転で物損事故を起こし減給の懲戒処分を受けていたことや、調べに対し『摘発される前にも二、三回飲酒運転した』と話していることも明らかにした」とこの警察官が以前より飲酒運転の常習犯であったことが報道されていました。

この事件に多くの県民が批判をしています。「四日に発表された処分、停職六ヶ月は軽い」「公表が遅い、隠し通したかった印象を受ける」「身内に甘い」。これに対し県警側では「停職六ヶ月の処分は免職に次ぐ重い処分であり妥当だと考える」「送検後の発表は従来通り。調べなければならぬことがあり、今日にいたった」「呼気一リットル中から〇・二五ミリグラムのアルコール分が検出された。言動がしっかりとっていたことから酒酔い運転ではないとした」また昭和六十年の処分歴については「すでに二十年以上経過していることなどから、今回は考慮しなかった」として、言い訳ばかりで犯罪を取り締まる側の者としての自覚は感じられません。

これは、前項での富山赤十字病院の医療事故の場合と同様で、自分たちのミスを隠そう、自分たちの立場を護ろうとする心理がそうさせるのです。そしてそれは誰にもあることです。「ミスをする。それを隠そうとする。それは誰にでもあること。だからお互い様、ある程度仕方がない」と言うのは間違いです。「過ちを改むるに憚ることなかれ」「過ちてそれを悔い改めざるが真の過ちなり」です。今回の前記二事件にしても、一度のミスで反省していれば起きなかつたと思えます。

神は不完全な私たちに、色々なシグナルを送って注意を促し、助力してくれまます。それはある時は貴重な発明のヒントであったり、ある時は金儲けの方法だったり、またある時は事故に至る前の前兆だったり、その時は何のことも気が付きません。後になって「そう言えはあの時」と思い当たります。私は、よくないことが起きた時は「これは何か大きな災厄の前兆かもしれない」と、その後は出来る限り慎重に判断・行動するようにしています。また、何かことを成す時、その成就に対し神にも祈る思いで集中し念じたことで成就しなかつたことはありません。私は朝礼の時の訓示で「あなた方、警一億円貯めたいと発心し、凡てをそれに集中するならば貯まります」としてよく口にします。従業員は「また社長の十八番が始まった」と思っていますが、私が今日まで強く欲した物事は、全て達成されて来ました(いまのところ)。

ですから目に見えない力(天・神・仏)を本当に信じています。『信ずる者は救われる』です。

三 北朝鮮の核実験実施声明

北朝鮮が核実験実施声明を出しました。これに対し、各国の反応は微妙で、西側諸国では「断じて容認できない」との認識で一致」と強硬姿勢であるのに対し、ロシア・中国などは「関係各国ならびに北朝鮮に、極端・過激な行動を取らないよう希望」と柔軟・慎重姿勢を示しています。

私は、本通信第一三六号(七月号)でも記しましたが、あまり目くじら立てて騒がない方がよいと思います。悪がきが駄々をこねているようなもので、こちらが騒げば益々調子に乗ってきます。

但、もし本当に核実験を実施したら、「経済封鎖だけでなく、場合によれば軍事施設への空爆などの報復処置をとる」ということを、はったりや口先だけの脅しではなく、「核実験実施後、何時間(何日)内に報復する」などと具体的に示して、相手の出方を待てば良いと思います。それでも北朝鮮が核実験を実施したら、それこそ経済封鎖ぐらいではなく北朝鮮を空爆し、金正日体制を崩壊し朝鮮民族の統一を実現すれば良いと思います。

勿論これには大きな犠牲が伴うことですが、それは大事の前の小事。もしこのまま放つて置けば、愈々北朝鮮が核兵器を開発し、大惨事に発展する。ことは火を見るより明らかです。

「先日のミサイル発射実験は失敗だったのでは」と報道されていましたが、そのうち完成し核爆弾も完成したら、それこそ『氣違いに刃物』です。

下手に人道主義や平和主義を声高に提唱し、取り返しのつかないことにならないよう気をつけなければならぬと思います。

と、これは例年十月は何かと忙しくて、早めに本通信を完成させておこうと、七・八・九日の三連休の間に仕上げた第四項目の記事でした。ところが、十日のテレビで「北朝鮮は九日午前、国営朝鮮中央通信を通じ、初の地下核実験に成功したと発表した」と報道され、急遽、第三項を削つてこの項を追加・訂正した次第です。

それにしても、金正日は頭が狂っているとしか思えません。国の意思統一のためマインドコントロールされた一般国民ならいざ知らず、世界情勢や我彼の力の差など何もかも分かっているながら、自殺行為に走るとは、何ぼ駆け引きの上とは言え、彼の頭の中が考えられません。それとも、軍部の圧力が強すぎて、金正日ひとりでは如何ともし難く、頂点に奉り上げられて、引くに引かれず困っているのでしょうか。それこそ、お隣に六十余年前、同じ間違いをした先輩国があるのに、「過去の歴史」を口にして自国の利益にすることの言いがかりばかりにしていないで、もっと大きな利益のためにも、これに学ばずきではないでしょうか。当事者になると気が付かないのでしょうか。もっとも、気が付けばこの度の様な馬鹿なことは最初からしないでしょうが。

それどころか、さらに第二回目(さらに複数回)の実験をすると報道しています。ここまで狂つてしまつては、もう元へは戻らないでしょう。日本が六十余年前、経済封鎖に遭つて自国の実力も返り見ず自暴自棄的に太平洋戦争に突入して行ったように、何れ、いやがおうでも北朝鮮は戦争を始めなければ如何にもならない状態に追い込まれるでしょう。

そうなるからでは、今よりはるかに犠牲が大きくなるのには目に見えています。そこまで行かぬば解決しないとは人間とはつくづく愚かな者だと思えます。

有限会社 沖商店 代表取締役 沖昌弘  
個人メール E-mail 062525@kshouten.com  
「にこにこ通信」の意見をばは個人的な連絡(1,500文字以内)